

歴史探訪

クラブ



History Inquiry Club

文化振興課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

新しく指定された文化財
「新美古墳のなぞ」

平成20年6月30日付けで、西神戸町の新美古墳が市の指定史跡となりました。指定に先立つ発掘調査で、周囲に溝が掘りめぐらされた推定直径約20mの円墳であることが確認され、藤原1号墳（中山町）、栄巖1号墳・城宝寺古墳・神明社古墳（田原町）、籠池古墳（大久保町）と並ぶ大きさであることがわかりました。また、これまでの調査や、見つかった遺物の年代から、6世紀後半に作られ、7世紀前半まで使われた古墳で

あることもわかっています。

渥美半島の古墳の特徴には、遺体を葬るための横穴石室（石の部屋）があり、古墳時代の中心地であった近畿地方の影響が見られます。このような横から入る石室が作られるようになったのは古墳時代の終わりのころで、1400年前のことです。

渥美半島を代表する新美古墳にもやはり近畿地方の影響が見られます。新美古墳の石室は全長8mもあり、す。しかし、新美古墳の周辺には、石室を作るのに適した大きさの石がありません。少なくとも、1.5km離れた山のすその辺りまで行かないと確保できません。新美古墳に使われた一番大きな石の重さは、3トンはあったと思われるので、運ぶのは大変だったでしょう。そして、この苦勞して運んだ石で、当時の最も流行していた近畿地方風の石室を作ったのです。

特に面白いと思っ たことは、石室の材料に石灰岩をたくさん使っていることで



新美古墳の石室（白く見えるのが石灰岩）

す。石灰岩は白谷を中心に藤七原でも産出していますが、石材を見ると表面がすべすべしているのが、割った石ではなく、山や海岸から拾ってきた石なのでしょう。そして、その運搬は陸路ではなく、船を使って白谷海岸から汐川經由で運ばれてきたと思われる。渥美半島で最も手に入れやすい石はチャートと呼ばれるもので、渥美半島の山のいたるところで見ることができます。あえて、数が少なく遠い場所にある石を選んだのはなぜでしょうか？石灰岩の白色に引かれるものがあつたのか、それともその場所にある石が大事だったのでしょうか？

藤原古墳については、佐久島およ



藤原古墳で使われた花崗岩

び幡豆あたりの石材を使っています。おそらく船で運んだのでしょう。

いずれにせよ、この両古墳を作った人たちは、何かにこだわって選んだ石を、船を使うなど苦勞して運んでいました。そのなぞを解くキーワードは海ではないでしょうか。（増山）

近畿地方の特長は、遺体を納める部屋と、その部屋に続く道とを意図的に区別して石が積まれた構造となっています。

今月の「表紙」

伊良湖岬に渡りの季節がやってきました。9月下旬から10月中旬にかけて、サシバ（タカノ一種）などの渡り鳥が海を渡っていきます。恋路ヶ浜には、カメラや双眼鏡などを持ったバードウォッチャーたちがいっぱい。私もサシバが力強く羽ばたいていく姿に、パワーをもらいました。（〇）

【表紙の写真】恋路ヶ浜